

1. 単元名 オリジナルの和歌を作ろう～万葉集から想いを馳せて～

2. 単元の目標

- ・歴史的背景などに注意して万葉集を読むことを通してその世界に親しみ、長く親しまれている言葉や万葉集の一節を引用するなどして使うことができる。 (知識及び技能)
- ・場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる。 (思考力・判断力・表現力等)
- ・万葉集の世界に親しみ、自分が気に入った和歌の一節を使って自分だけの和歌を作ることができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、「万葉集」を教材として取り上げる。万葉集は飛鳥・奈良時代に成立したとみられる、日本に現存する最古の和歌集である。全20巻にも及ぶ万葉集の中には、およそ4500もの和歌が収められており、大きな特徴として、天皇から防人・庶民まで身分を問わず和歌が選ばれている点が挙げられる。万葉集を学ぶことで、飛鳥・奈良時代に生きていた人が考えていたこと・感じていたことを知ることができる。

(2) 生徒観 ※省略

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず天台声明とグレゴリア聖歌を聴くことから、日本と西洋の音楽の起源を知り、声以外に音が無いことに注目させる。「声だけ」という視点から、和歌も同じであること、言葉は文字ではなく音声だということに気づかせる。声だけではなく、三味線や箏等の日本音楽についても触れる。声で伝えてきたことを知った上で、新井満さんの和歌を繋げた歌を聴いたり、木下龍也さんの動画を視聴したりすることで、和歌を書く人の想いを感じ取ってほしい。和歌1つ1つに込められている想いがあると理解してから、反復やオノマトペを使った和歌より気に入ったものを選び（音として認識させるために）そこからイメージできるリズムパターンを付ける。どんなイメージにも合うように、様々なリズムパターンを用意する。そして作ったものを発表し合い、同じ和歌を選んだ人同士でも全然違う作品になることを体験してもらう。最後に、教師が作った旋律も付いている作品を聴いた上で、長調と短調それぞれのパターンに変えて弾き、受ける印象が全く違うことも体験してほしい。

(4) ESD との関連

・本学習で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)

多様性・・・和歌1つ取っても様々な方法で残り続けていること。

相互性・・・今も昔も和歌を作っている人の気持ちは変わらないということ。

・本学習で育てたい ESD の資質・能力

進んで参加する態度

万葉集の和歌を学び、自分でも作ってみようとする態度

システムズ・シンキング

万葉集という歴史の古いものに様々な時代の音楽を融合させる中で多面的な思考力が求められるということ。

・本学習で変容を促す ESD の価値観

世代間の公正

昔の人たちが感じてきた想いを、今の自分たちが知るだけではなく後世にも繋いでいくことが大切である。

文化を尊重する

文化が継承されるように努めなくてはならない。

・達成が期待される SDGs

4 質の高い教育をみんなに

**4. 単元の評価規準**

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①歴史的背景などに注意して万葉集を読むことを通してその世界に親しんでいる。 ②長く親しまれている言葉や万葉集の一節を引用するなどして使っている。	①場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している。	①万葉集の世界に親しみ、どのリズムパターンが合うのか積極的に活用している。

5. 単元の指導計画（全3時間）

学習活動	○学習への支援	評価
<p>①</p> <p>1 天台声明とグレゴリア聖歌を聴き、J-pop との違いから声だけで伝える文化、歌の起源を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽器の音が無い</li> <li>・何で声だけなんだろう</li> </ul> <p>2 「声だけ」であることから和歌も同じであるとかつむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・和歌にも音が無い</li> </ul> <p>3 日本の伝統音楽である三味線や箏についても知る。</p> <p>4 新井満さんの歌を聴いたり、木下龍也さんの動画を見たりすることで、和歌や短歌には想いが詰まっていることを知る。</p>	<p>○普段聴いている音楽との違いを感じ取れるようにする。</p> <p>○言葉は文字ではなく音声であることに気づかせる。</p> <p>○なぜ人々が万葉集を残してきたのかまで考えられるようにする。</p>	<p>ア① (知・技)</p>
<p>②</p> <p>5 反復やオノマトペが使われている和歌から気になったものを見つける。</p> <p>6 タブレットに和歌を打ち込んで音声にする。</p> <p>7 その和歌にクラシックや J-pop、Jazz やロック、サンバ、ボサノバ等のリズムパターンの中から和歌に合うものを選び、和歌に BGM をつける。</p>	<p>○教師があらかじめ和歌の選択肢を絞っておく。</p> <p>○音声ソフトに読み込ませる。</p> <p>○なぜそのリズムパターンを選んだのか明確化するためにワークシートに書かせる。</p>	<p>ウ① (主体的)</p>
<p>③</p> <p>8 7の続きをする。</p> <p>9 作ったものを発表する。</p> <p>10 他の人の発表を聴いて印象に残ったものをカードに書く。</p> <p>11 教師が作ったリズムパターンを聴く。</p>	<p>○全員分発表させる。</p> <p>○リズムだけではなく、旋律や調を変えたパターンも聴かせる。</p>	<p>ウ① (主体的)</p> <p>イ① (思・判・表)</p>